



楷樹 (山崎記念館前)

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会
〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
TEL・FAX (096) 373-5425
ホームページ <http://www.119higo.com/>

発行人 理事長 西 勝英 編集人 木原 信市
印刷所 懶城野印刷所 TEL (096) 286-3366(代)

理事長挨拶



公益財団
法人「肥後
医育振興

理事長 西 勝英

会」は本年度をもちまして創立二十一年を迎えることとなりました。創立以来、長きにわたりご援助、ご支援していただきました皆様深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本財団は熊本大学医学部創立一〇〇周年を記念いたしまして、熊本における医学研究、医療の充実、市民への正しい医学情報を提供することを目的として発足いたしました。発足当時、大学は改革の中にあり、大学医学部としての在り方に大きな期待が寄せられていた時期でもあり、諸先進国では大学の運営に大きな役割を果たしている「財団」を模範に設立された組織であり

ます。このような財団は大学運営に大きな財政的寄与と社会的貢献が期待されているところでもあります。当財団がこれまで当初の目的通り熊本大学医学にだけだけの貢献が可能であったかを振り返るとき、必ずしも十分ではなかったとの思いがあります。しかしながら、微小ではありますが、若手研究者に対する研究助成金の授与、留学生に対する援助、各種研究会や学会開催に対する助成についてはかなりの寄与を果たしてきたものと思っております。特に熊本県民に対する正しい医学情報提供として、熊本日日新聞社、一般法人化学血液療法研究所との共催で開催しています「肥後医育塾の開催」は六十回を重ね、県民に対してメディアを通じての啓蒙に大いに寄与しているものと自負しています。この二十年に

わたり多くの情報を提供していただいた全国の医学・医療関係者並びに熊本地域の医療関係者による援助の賜物と感謝いたします。これらの事業業績が評価され、平成二十一年度には熊本県では第一号の公益法人に認定されました。

平成二十年代は大学における画期的な改革が進行し、熊本大学医学部は大学院大学として先進的な研究、教育を遂行する機関として新たな道を歩み始めています。一方、大学改革の波はややもすれば、実利的な面での発展に重点がおかれる傾向になっていきます。その結果、基礎的研究分野には十分な予算措置がつけられなくなり、大学院における基礎研究者の減少、科学の基礎を支える論文の発表数の減少を招いています。このような状況では、これまで多くの基礎研究者のノーベル賞受賞者を輩出してきた我が国の研究は衰退の一路をたどるのではないかと危惧されます。このような状況を打開するには国民の科学技術研究に対する基本的な思考の転換と政府による十分な予算措置が望まれます。しかしながら、公的助成に頼るだけでなく、私的な組織である「財団」も、基礎研究に対する助成に十分な寄与をしなければならぬと思います。現在の肥後医育振興会はその責務を果たしている状況ではありません。今後、創立二十周年を経た財団としては、新たな目標として、基礎研究助成に力点を置き、諸団体、財界からの寄付、援助をお願いして財政的な充実を図りたいと思っております。この時期にあたり、財団理事長としての責任を痛感している次第であります。

と危惧されます。このような状況を打開するには国民の科学技術研究に対する基本的な思考の転換と政府による十分な予算措置が望まれます。しかしながら、公的助成に頼るだけでなく、私的な組織である「財団」も、基礎研究に対する助成に十分な寄与をしなければならぬと思います。現在の肥後医育振興会はその責務を果たしている状況ではありません。今後、創立二十周年を経た財団としては、新たな目標として、基礎研究助成に力点を置き、諸団体、財界からの寄付、援助をお願いして財政的な充実を図りたいと思っております。この時期にあたり、財団理事長としての責任を痛感している次第であります。

ますますの皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。